|  |  |
| --- | --- |
| ホットライン |  |
|  |

令和　　年　　月　　日

10コースをはじめる前に

（答案用紙の書き方）

○○○中学校

　いよいよ「マイコーザ」の学習は、泣いても笑っても、これが最後。よくがんばりましたね。

　この１年間のがんばりから、きみたちはどれだけ多くのことを学んだかわかりません。学力がついた、ということばかりでなく、目に見えない力がきみたちの心の中に芽生えているのです。

　これから先の人生でも、きっとこの１年間のことが忘れられない足跡として心に刻まれ、思い出されるにちがいありません。

　ところで、きみたちは、当面の目標を達成したわけではありません。いままでに学んだことをもとに、最後のラストスパート。言ってみれば、三段跳びのホップ、ステップ、ジャンプの、ジャンプのときです。いかに完全に、美しく着地できるか、もはや前を見つめて空中を走り抜けるだけです。

　テストでは、いくら学力があっても、知識があっても、理解が深くても、答えの書き方を間違えていたり、問題を読み間違えていたのでは何にもなりません。そこで、今回は、「答案用紙の書き方」のポイントを示しておきます。

|  |
| --- |
| 問題をよく読め。早トチリこそミスのもと。 |

　問題をよく読まないで、すぐとりかかる人がいます。そのために何回失敗したか、という過去の教訓も忘れて、さっさと問題に入ってしまうのです。

　「…ひらがなで書きなさい」「ア～エの記号で答えなさい」「二つ選べ」「小数第二位まで書け」というようなところをまちがえてしまったり、答える単位をまちがえてしまったりします。

　あるいは、問題の条件を読み落としたり、指示を無視したりする人もいます。

　たとえば「立方体で、表面積は何cm２ ですか」という問いに、ただ数字を書いたり、立方体の体積を求めてしまったり、というミスがあります。

　こんなミスはだれでも１度や２度はあるはずです。このミスをなくすだけでも、大変な得点の差になるものです。

|  |
| --- |
| １度出した答えを、問題にあてはめて確認せよ。 |

　問題を読んで、答えを出した後、その答えが合っているかどうか、もう１度確認しない人がいます。書き方をちょっと注意するだけで正解になったり、確認をしてミスに気がつくこともよくあります。

▲指示語の内容は、指示語に代入して確かめる。

「人間は鳥を見て、空を飛びたいと思ったにちがいない。そのことが……」→「そのこと」の内容は「空を飛びたいと思ったこと」のようにする。「そのこと」にあてはまるように書く。

▲理由を述べなさい。

　「～ため」「～ので」「～だから」と理由を述べる言い方をしないとまちがい。

▲「ある学校の生徒は200人で、そのうち55％が男子である。男子の人数は何人か」→答えが105人となった場合、105÷200×100＝52.5（％）で、これはまちがいであることがわかる。

▲ｘ＋３＝２ｘ＋６でｘ＝１と解いた場合、ｘ＝１を代入して確かめます。１＋３＝２×１＋６より，

　(左辺)＝４，(右辺)＝８となるから、この答えは誤りであることがわかる。

▲　　　　　did she 　　　　 to Japan?　　（　　　線に入る語を書く）

　She came to Japan three months ago.

　答えを When , came とした場合、もう一度、過去か現在か、意味は？と確かめてみる。

◎問題文、選択肢がヒントになる

　「20字以内で書きなさい」などの問題が出ると、すぐあきらめる人がいます。しかし、「20字以内」という指示がヒントになるのです。どこかに必ず答えになるキーワードがあるのです。

確認のポイント

●漢字は正しいか。

●単位はよいか。

ｍＡかＡか

ＷかｋＷか

ｍかｃｍ、ｋｍか

ｃｍ２かｃｍ３か

（英語）

●大文字か小文字か

●三人称単数か複数か

現在か過去か

など

　また、選択肢（せんたくし）は、大きなヒントになります。選択肢の中には、まちがいやすいものを入れていますが、すぐわかるまちがいもかならずあります。

　わからない、とあきらめずに、この中に答えがあるのだ、とあわてずに考えることです。わからないから「えい、こっちだ」では困ります。